

既存住宅地における住環境と防犯の意識に関する研究*

A Study on Environment and Crime Prevention in Old Residential Area*

中津川拓也**・岡村敏之***・中村文彦****・王銳*****

By Takuya NAKATSUGAWA**・Fumihiko NAKAMURA***・Toshiyuki OKAMURA****・Rui WANG*****

1. はじめに

近年、高度経済成長期に開発された都市郊外住宅地において、住宅や地域インフラの老朽化や少子高齢化などの問題が顕在化しつつあり、公共交通や商業施設などの利便性や公園や緑地などの快適性等の改善の必要性も生じている。加えて、犯罪に対する住民の不安感の増大もこれらと共に問題となっており、住居の周辺環境における安全性も重要な課題と言える。

住環境の評価については、浅見らの著書¹⁾で利便性や快適性については詳細に述べられているが、犯罪に関する安全性に関しては、具体的な評価についてまでは言及されていない。犯罪不安感および防犯については、防犯環境設計に関して詳しく書かれたもの²⁾や、これを用いた斎藤らの集合住宅地における研究³⁾や野田らの歩行者経路選択と犯罪との関係の研究⁴⁾などが挙げられるが、住民の住環境の満足度や防犯対策への影響にまでは言及されていない。

そこで本研究では、首都圏郊外の既存住宅地において、住民の住環境の満足度の評価と、犯罪不安感と防犯対策の必要性と新たな対策への要望との関連を共分散構造分析によるモデルを用いて分析することを目的とする。

2. 調査概要

大都市郊外の既存住宅地(図 1)の住民を対象に、自分が住んでいる地区についての意識を訪ねるアンケートを実施する。

*キーワード：既存住宅地、犯罪不安感、防犯環境設計

**学生員、横浜国立大学大学院工学府

***正員、博(工)、横浜国立大学大学院

****正員、工博、横浜国立大学大学院

*****正員、博(工)、横浜国立大学大学院

(横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5 TEL/FAX:045-339-4039)

調査表の設計の際には、犯罪不安感や防犯対策の分類として、犯罪を未然に防ぐための防犯環境の形成を目指す「防犯環境設計」の概念を用いて各設問の項目の設定を行った。(表 1 参照)。詳細には、①住環境において、犯罪不安感がどの程度影響を及ぼしているか ②犯罪不安感と現在行っている防犯対策と今後の施策との関連性の 2 点を主な目的として、問 1 から問 5 までの関係を明らかにする設問を設定した。(表 2 参照)

加えて、住民の意識を反映させるために、個人属性の他に「個人の持つ犯罪に対する備えや抵抗力」(例：犯罪情報の取得頻度)に関する質問も設定した。(表 1) 回答形式は住環境と防犯に関する意識を 5 段階または 4 段階の選択式で質問している。



図 1 調査対象地区(神奈川県厚木市)

表 1 防犯環境設計の概要

分類	概要	例
領域性の確保	犯罪者の侵入を阻止するように地区の管理や秩序の徹底を行う	住民による見回り、清掃活動
監視性の確保	犯罪者の行動を阻止するために周囲の視線を絶やさない	警察のパトロール、公園の木々の管理
対象の強度	犯罪に対する備えや抵抗力を持つ	防犯グッズ、注意喚起による意識向上

表 2 アンケートの設問概要

問1 住環境における満足度および重要度(5段階)
① 自然災害の危険が少ないこと
② 犯罪に対する不安がないこと
③ 静かであること
④ 空気がきれいであること
⑤ 交通の便がよいこと
⑥ 生活施設(商店・銀行等)が近くにあること
⑦ 周辺の緑が豊かであること
⑧ 歩道や道路が整備されていること
⑨ 公園等のゆとりの空間があること
⑩ 近所づきあいが活発であること
問2 住環境の総合的な満足度(5段階)
問3 現状の犯罪不安感と20年前との比較(5段階)
① 様子が伺えない場所(空き家、廃屋等)があること
② 警察のパトロールがないこと
③ 日中でも人通りが少ないこと
④ 近所付き合いが希薄になること
⑤ 素行不良の子供達がいること
⑥ 地域の活動が少なくなること
⑦ 地域の高齢化が進んでいること
⑧ ゴミの散乱や落書きがあること
⑨ 部外者が地域内に入ること
問4 現状の防犯対策の取り組み(4段階), 必要性(5段階)
① 自身で防犯対策をする
② 地域で死角となる場所をなくす
③ 地域で部外者が侵入しにくい 雰囲気をつくる
④ 自治体が住民に注意喚起をする
⑤ 警察や自治体が防犯活動を行う
問5 今後の具体的な対策の賛否(5段階)
① 住民が子供の登下校時に道に立つ
② 死角のある場所を地域が管理する
③ 空き地・空き家を自治体が公共施設に変える
④ 自治体で監視カメラを設置する
⑤ 警察によるパトロールを実施する
⑥ 回覧板等による犯罪情報を地域が提供する
⑦ 地域住民による見回りを実施する
⑧ 住民が清掃活動をする
⑨ 自治会で警備会社に警備を依頼する
⑩ 行政が犯罪情報のメール配信を実施する

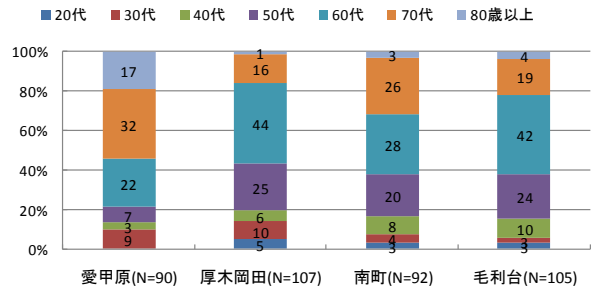


図 2 地区別の回答者の年代構成

4. 住環境の評価に関する分析結果

(1) 住環境における住民の満足度および重要度

図 3 と図 4 は住環境における利便性,快適性,安全性に関する重要度についての集計結果である。これらの地区は実際的には,犯罪発生率がことさら高いわけではない。しかし,これらより,利便性や快適性よりも,犯罪不安が少ないところが重要であると見なし,かつ満足度が低い傾向が最も高く,既存住宅地において犯罪不安に対する住民の意識が非常に高いことがわかる。

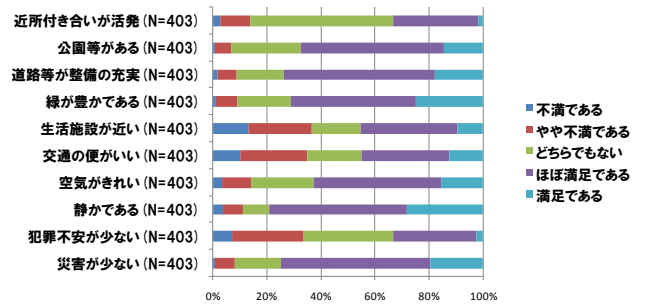


図 3 住環境における満足度

3. 調査実施概要

調査対象地域は,神奈川県厚木市の A:南町,B:厚木岡田団地,C:愛甲原住宅,D:毛利台 1 丁目の 4 地区(図 1)である。A,B,は本厚木駅から徒歩圏内, C,D は市街地から離れた郊外に立地しており,また,高齢化率が 4 地区とも高く,特に,B は 30%を超えている。2009 年 1 月 25(日)に各世帯に調査票を配布し,郵送により回収した。具体的には,1 世帯につき調査票を 2 枚封入した返信用封筒を各地区 200 世帯に配布し,回収票は 369 票であった。回答者属性は,図 2 に示す通り,すべての地区において,50 代以上の回答者が半数以上を占めた。4 地区の中で厚木岡田団地が 40 代以下の割合が最も大きい,これは開発されてまだ 20 年ほどしか経過していないことが理由に挙げられる。

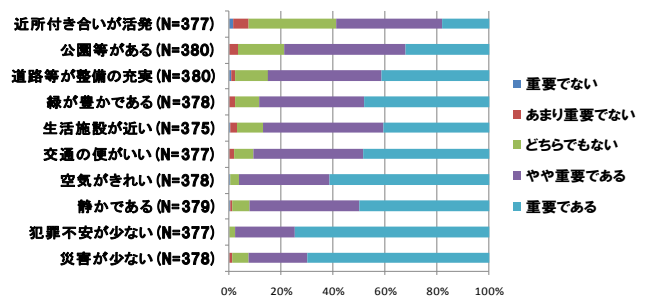


図 4 住環境における重要度

(2) 住環境の満足度における意識構造分析

共分散構造分析を用いて,総合的な住環境の満足度に対する意識構造を利便性,快適性,安全性に関する変数を用いて明らかにする。図 5 は,各項目に対する満足度と,総合的な住環境における満足度の因果関係を示した

モデルである。(楕円：潜在変数,四角：観測変数) 図中の数値は標準化したパラメータ値であり,AGFI と RESEA の値からもモデルの適合度が高い。図 5 より,「安全性」と「利便性」の満足度の評価が,「快適性」に比べて係数の値が大きく,住環境の満足度に対する影響力が大きいことがわかる。特に,「安全性」は,3 変数の中での最もパラメータ値が大きい。そして,「安全性」の評価の中でも,「犯罪に対する不安がない」の係数が高く,「自然災害の少なさ」よりも,満足度に大きく影響することがわかる。快適性が他の変数よりも値が低い,これらの郊外の住宅地では快適性が比較的高いため,快適性が総合的な満足度に影響しないという理由が考えられる。以上より,安全性,特に犯罪不安感のないことが,利便性と同様に,郊外の住宅地の住環境の満足度の意識構造において重要な要因となっていると言える。

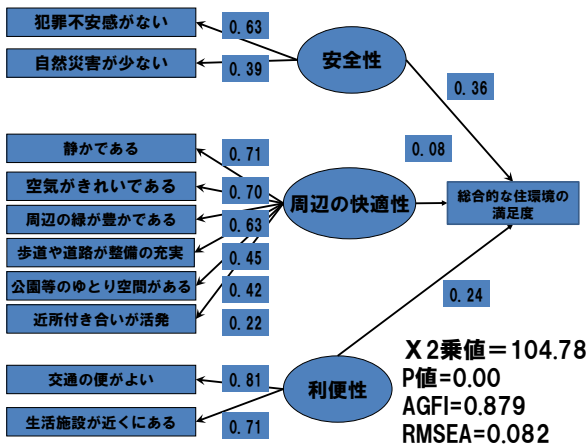


図 5 住環境における満足度の因果モデル(標準化)

5. 犯罪不安感と防犯に関する分析結果

(1) 戸建て住宅と集合住宅での不安感の違い

図 6 は,自身で行っている防犯対策の現状について地区別に集計したものである。また,図 7 は行政などで防犯に関する注意喚起を行っていると感じるかにについて地区別に集計したものである。ここでは,集合住宅地と戸建住宅地の傾向の違いがみられる。厚木岡田団地において行っていない(注意喚起の場合は「行っていない」と感じられる)という傾向が大きい,対照的に,他の 3 つの住宅地は行っている傾向が大きいといえる。理由として,集合住宅の物理的な構造が戸建て住宅地と比較して密度が高く,施錠などの物理的な防犯対策が一律に管理されているということが挙げられる。注意喚起に

関しても,自治体のものよりも,管理組合によるものが多いという理由が考えられる。このように,住宅地の形状(戸建て型・集合型)によって現状の対策の傾向が異なっているといえる。

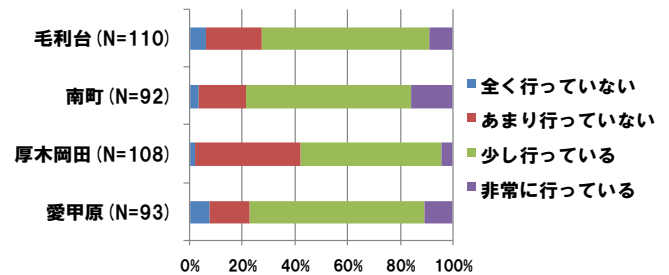


図 6 地区別防犯対策(自身によるもの)

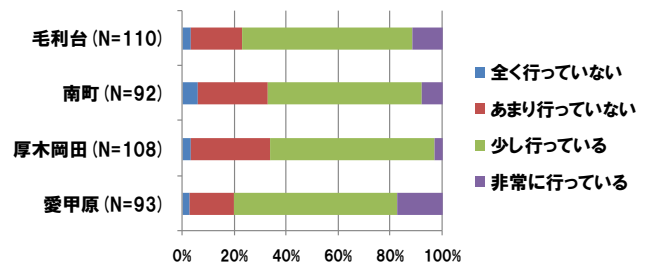


図 7 地区別防犯対策(自治体による注意喚起)

(2) 今後の防犯対策の必要性と要望する対策の関係

図 8 は,主に問 3 と問 4 の回答データを用いて防犯対策の今後の必要性に関するモデルである。図 9 は問 3 と問 5 の回答データを用いて具体的な施策と犯罪不安感などに関するモデルであり,表 3 に詳細なパラメータの数値を記す。

図 8 で着目すべきことは,今後の必要性に対する監視性,特に「人通り」や「警察のパトロールがないこと」による不安感の影響が強いことである。この理由としては,既存住宅地の高齢化や人口減少が考えられる。加えて,領域性に関しては,「ゴミや落書き」,「犯罪情報の取得頻度」に関しては,近所の噂よりも,回覧板等の影響が多いことがわかる。

図 9 では,現状の対策の今後の必要性の代わりに,具体的に新たな対策を提案し,それに関する賛否を用いて分析を行った。図 7 の場合とは対照的に,「監視性」が 3 つの対策に正の影響を与えているものの,他の 2 つ(「領域性」,「犯罪情報」)に関しては負の関係を示している。(表 3) また,犯罪情報に関しては,領域性以外の有意な因果関係は見られなかった。この結果は,現状の対策を維持していくという意見が多く,新たに提案した対策に

懐疑的であるという理由が考えられる。

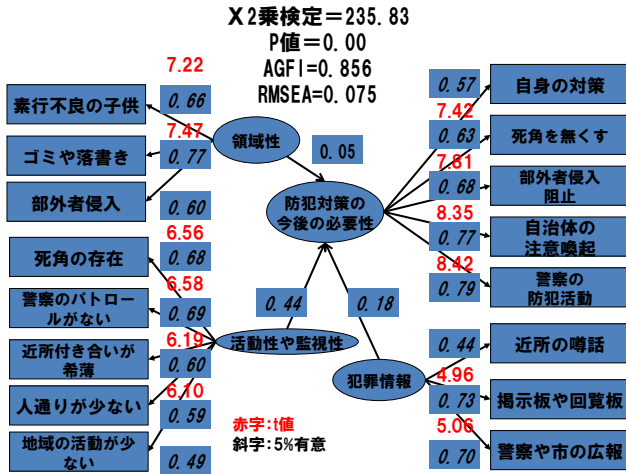


図 8 犯罪不安感と今後の対策の必要性のモデル

表 3 変数の一覧(標準化)

変数	推定値	標準誤差	t値	確率
住民の活動 <-- 領域性に関する不安	-1.59	0.491	-4.072	***
監視強化 <-- 監視性に対する不安	1.849	0.286	3.764	***
住民の活動 <-- 犯罪情報	0.132	0.131	1.617	0.106
住民の活動 <-- 監視性に対する不安	1.592	0.39	4.291	***
対象の強化 <-- 領域性に関する不安	-2.24	0.4	-3.593	***
対象の強化 <-- 監視性に対する不安	2.305	0.325	3.791	***
監視強化 <-- 領域性に関する不安	-1.56	0.329	-3.316	***
死角の存在 <-- 監視性に対する不安	0.637			
警察のパトロールがない <-- 監視性に対する不安	0.657	0.103	8.124	***
人通りが少ない <-- 監視性に対する不安	0.55	0.108	7.085	***
近所付き合いが希薄 <-- 監視性に対する不安	0.56	0.098	7.188	***
地域の活動が少ない <-- 監視性に対する不安	0.473	0.084	6.236	***
素行不良の子供 <-- 領域性に関する不安	0.549			
ゴミや落書き <-- 領域性に関する不安	0.632	0.167	6.858	***
部外者侵入 <-- 領域性に関する不安	0.59	0.139	6.587	***
警備会社に警備を依頼 <-- 監視性の確保	0.406			
地域で死角を管理 <-- 監視性の確保	0.572	0.223	4.866	***
住民の見回り <-- 領域性の確保	0.875			
住民が登下校時に立つ <-- 領域性の確保	0.353	0.079	4.838	***
住民の清掃活動 <-- 領域性の確保	0.636	0.094	7.632	***
メール配信による情報 <-- 対象の強化	0.462			
掲示板による犯罪情報 <-- 対象の強化	0.717	0.241	5.364	***
警察のパトロール強化 <-- 監視性の確保	0.653	0.209	5.075	***
空き地・空家に公共施設 <-- 監視性の確保	0.44	0.248	4.321	***
自治体で監視カメラの設置 <-- 監視性の確保	0.522	0.285	4.69	***
警察や市の広報 <-- 犯罪情報	0.635			
掲示板や回覧板 <-- 犯罪情報	0.799	0.231	5.447	***
近所の噂話 <-- 犯罪情報	0.421	0.133	5.166	***

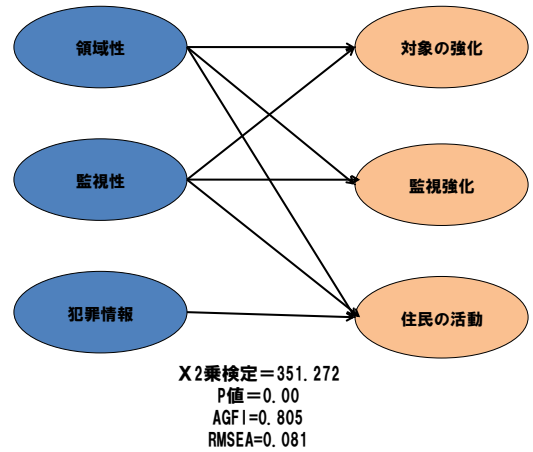


図 9 犯罪不安感と新たな対策の因果モデル

6. おわりに

本研究より、総合的な住環境の満足度における犯罪に対する安全性の満足度の影響と住民の犯罪不安感と防犯の意識に対する因果関係を求めることが出来た。今後は、実際の犯罪発生率との関連性や、犯罪を減少させ、治安を高めるための対策の実施や効果に対する評価の方法、防犯環境設計以外の指針の検討、より多くの住宅地での調査などが課題として挙げられる。

参考文献

- 1) 浅見泰司「住環境評価と理論」, 東京大学出版会, 2001
- 2) 都市防犯研究センター JUSRI リポート 第 31 号「防犯環境設計ハンドブック」, 2005
- 3) 齋藤裕美「集合住宅地における犯罪不安感に影響を及ぼす要因の研究」 第 26 回日本都市計画学会学術研究論文集, p223-228, 1991
- 4) 野田大介・室崎益輝・高松考親「防犯環境設計に関する研究—都市における歩行者経路属性と犯罪の関係について—」 第 31 回日本都市計画学会学術研究論文集, p781-786, 1999